

平成19年度 学校評価結果報告

皆様には日ごろより本校教育に対し、ご理解とご協力を賜り心から感謝いたします。

今年度当初に作成しました学校評価計画に基づき、教育活動を展開してまいりましたが、このたび、その評価結果をまとめましたので、ご報告いたします。

年度途中、7月と12月に保護者及び学校評議員の方々からのご意見をアンケート形式で頂きました。併せて実施状況の点検・評価を教職員による自己評価として行い、まとめて中間評価としました。

その後、改善策を検討・作成し、改善プランを実施することを繰り返してまいりました。2月には年間の取組みについて成果と課題を明らかにし、今年度学校評価の総括といたしております。

評価に当たりましては、貴重なご意見を多数お寄せいただき、誠にありがとうございました。総合結果については次年度の学校運営計画作成に活用させていただきます。

以下の表に結果を示します。

学校評価実施結果一覧

教育目標	生徒の個性を生かし、健全で堅実な産業人としての資質の向上を図り、よき社会人として、豊かな人間の育成を目指す。
------	--

学校運営計画			評価の総括				
重点目標			成果と課題		改善策		
1 自ら考え・判断・行動させ、人としての基本的な生活習慣を確立させる。			年を追うごとに集団としては成長できている。		個別指導の充実が必要。		
2 自分に厳しく、「確かな学力」の向上を図り、望ましい進路を実現させる。			授業研究の取組みが不十分。進路指導は成果が出た。		授業研究の体制作りを進める。		
3 他人に優しく、人権を尊重し、思いやりの心や豊かな人間性をもつ人格形成を行う。			人権学習と学校集団行事により大きな成果が出た		特別活動の更なる充実。		
4 地域社会との連携をはかり、地域に根ざした学校づくりを推進する。			「おおいた教育の日」を機会として地域との交流が広がった		地域へ繰り出す行事の検討。		
評価項目	目標	具体的方策	自己評価	外部評価	評価	成果と課題	改善策
教育課程	2 HR活動・特別活動・学校行事等の教科外課程および授業等の教科課程のそれぞれについて、時間数の確保と内容の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事の精選および運用上の工夫を行い、教科教育活動および教科外教育活動ともに、実施時数確保を行う。 教科外教育活動については、より詳細な年間実施計画を作成する。 教科教育活動については、年間学習指導計画および同報告書を充実させる。 	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 授業時数については、曜日間の差違は曜日の入れ替えて割と小さくできたが、時限の差違が大きい曜日ができたため全教科目が満足のいく時間確保ができたとはいえない。行事に当てる時限の工夫・検討を行う必要がある。 かなり詳細な計画は作成できたが、年度途中での変更および新しい行事の追加等で更新を余儀なくされた。 前年度からの実施なので充実しつつある。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間行事計画の作成時に曜日の選定を平均的にを行い、毎月の授業時数のデータを基に行事に当てる時限を決める。 各分掌の行事を年度当初に計画してもらう。 報告書が出た時点で計画に従った実施ができていないか等の検証をする。
	2 学校外の学修などによる単位認定制度等の積極的活用を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒への積極的な働きかけを行い、資格試験や検定試験の受験者を増やすとともに、受験対策等の指導を充実させる。 	3			<ul style="list-style-type: none"> 2学期末にも生徒への呼びかけを行ったが、各種資格および検定試験は、クラス担任や学科の働きかけで成果は上がっていると思われる。合格率の引き上げが課題である。実務代替による単位の認定は、諸問題を検討する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 実際に合格者を出しているが単位を認定していない資格について、できる限り認定可能となるよう環境作りをする。実務代替については、あまりにも限られた生徒になるので、幅広い対象となるような方策を関係分掌と模索、研究する。

評価項目	目標	具体的方策	自己評価	外部評価	評価	成果と課題	改善策
教科指導	2 基礎学力向上を目指した効果的な学習指導法の開発および校内学習指導体制をつくる。	・基礎基本の定着を目標にした、「(教員)一人一実践」の取組みを進める。 ・昨年度に引き続き、教科や学科にとらわれない他教科教員相互乗り入れ型授業研究活動を実施する。	3	3	3	・各自の自己申告の学習指導目標をこれに替えたので、取り組みは十分できていると思う。 ・1学期は授業担当者の了解で呼びかけたが実現せず、2学期は期間を設けたところ、6名(10科目20時間)の実施が実現した。	・現行通りで十分と思う。 ・各学期に1回は期間を設けて実施したい。ただし、3学期は諸行事が多く難しい状況にある。また授業担当者と参観者の意見交換の場を検討する。
生徒指導	1 基本的な生活態度や生活習慣を確立し、集団生活を営む上での必要なモラルを身に付けさせる。	・授業開始、終わりの挨拶や入室方法のさらなる育成と、詳細にわたる統一した指導体制の確立。 ・生徒指導に関する教師間の連携を強くするために、学年や教科担当者にて生徒把握と支援方法を討議する機会を多くとる。 ・教師として生徒にどう係わりながら生徒指導を進めていくか等の対策を課題として話し合い設定する。	3	4	4	・学校生活での挨拶の励行は、授業の開始・終わりの礼法を含めて、できているもののクラスや教科によって差があり、さらに継続した目標の1つとしたい。 ・教師として生徒をいかに支援していくかとして報・連・相の強化を上げ、機会あるごとに面接を実施した。生徒の姿がかなり鮮明に見えてきたことで生徒指導にも成果があった。 ・指導内規の見直しは、ほぼ完了した。詳細の確認後次年度から新しい形にて施行する。	・教職員集団による生徒のモラルの育成を全職員で行う。学校生活での礼法や挨拶の定着は、年度始めを強化月間とし、学期ごとに状況を把握する。 ・生徒状況をしっかり把握する体制をつくるとともに、指導の方向性を探りながら、報告・連絡・相談をより密なものとする。 内規の施行徹底と生徒の理解を目指すとともに問題行動の減少に努める。
進路指導	1 就業率の向上を目指し、常時7割以上を維持するよう努める。	・定時制の趣旨を理解させて、特に未就業者に対する指導を積極的にいき、就業率7割以上を目指す。	4			・1年生の2学期以降の就業が増え、その結果、2学期以降80%を超えた。	・高就業率を左右するのは1年生であり、そのためには夏季休業までいかに就業意識を植付けるかが鍵になる。
	2 生徒の希望進路を達成させるための環境を整える。	・進路学習を充実させる為、担任の学習会を実施する。 ・求人情報の収集および提供、希望職種に対するハローワークや企業訪問による求人開拓を積極的に行う。	3	3	3	・就職の際のミスマッチをなくすため、生徒が興味を持った企業には積極的に訪問を行い、定時制のシステムを説明すると共に仕事内容を理解するのに役立たせた。さらに積極的な就職開拓も行いたい。	・次年度も同様の取り組みを続け、さらにハローワークから発信される求人状況を利用し、積極的な求人開拓と本校のPRを行いたい。
	3 本校教育振興会役員の結束を図る。	・振興会会報の発行を定期的に行い、振興会役員として本校の様子、現状を把握してもらおう。	3			・振興会の懇親会を始め、現在生徒が就業していない企業にも顧問として所属し、指導並びに協力をお願いした。	生徒の様子や就業状況を知らせる会報を発行し、学校の状況を知ってもらい、また機会があれば生徒に講演などして頂く

評価項目	目標	具体的方策	自己評価	外部評価	評価	成果と課題	改善策
特別活動	1 3 諸行事を通して、健全な人間関係と人格づくりをめざすと共に、学校生活を充実したものにしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・行事の内容を充実させるため、十分な検討と準備をする。 ・校歌を皆で歌う意識を持たせ学年を超えた交流を目指す。 ・生徒会執行部を中心に、「生徒による生徒のための」活動の工夫をする。 ・文化的、体育的行事の両面の成果を次年度に生かせるよう反省会を充実させる。 ・クラス目標を学年目標につなげる工夫を生徒会目標に反映させる。 	3 4 3	4 4	4 4	<p>文化の集いを初めて実施したが性とは積極的に参加した。体育大会に於いては、保護者、雇用主の積極的な参加もあり、性とも一生懸命に取り組んだ。生徒会選挙では多数の立候補者が出て、今後の生徒会の活性化につながっている。</p> <p>各行事で校歌を歌うことで、卒業式においても性とが歌うことができた。定通大会では、競技、練習時間など多くの問題点を提起してもらっている。</p>	定通大会に向けた練習については、来年度改善案を提示したい。後期部活をどうするか、文化祭期間の映画教室をどうするか、新学期には提示できるようにしたい。
健康安全指導	1 自らの健康を自己管理していく知識・態度の育成をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・学級担任や各分掌との連絡を密にして生徒一人一人の健康状態を把握すると共に教育相談活動を活性化させる。 	3			<p>定期健康診断の受診率は向上した。健康調査や心の健康状態調査を実施したり、保健室の環境整備をした。心身両面からの状況把握に努めたり、講演等を実施した。</p>	教育相談に関する講話・生徒を対象とした心肺蘇生法の研修等を検討したい。
	1 3 4 健康管理の充実に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・給食活動を通じて食事のマナーや食品に対する興味関心を育て、地域の方との交流をはかる。 	3	3	3	<p>給食教室を開催することで、豊かな心・好ましい人間関係が少しずつ育ってきている。給食指導では健康と食事のかかわり等理解した。しかし実践までには至っていないテーマ・生徒もいる。</p>	次年度給食が民間委託になるが、できる範囲で給食教室・給食指導を続けたい。
人権教育	1 3 生徒が人権に関わる問題を自己の課題として捉えての理解と認識を深め、その解決に向けて互いに支え合うことができる生徒の育成に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・学年別人権学習、平和学習、人権教室の企画・実施の準備・実施後の検証を徹底し、生徒への興味関心の喚起に努める。 ・生徒の実態(課題)を把握し、その中から見えてくる問題の解決に向けた適切な策を人権教育部や人権教育推進委員会で検討する。 ・各種行事および人権標語の募集・表彰については、すべての生徒・教職員への関わりを呼びかけ、見える形としての活動の継続を維持する。 	3 3 3		3 3	<p>生徒の共感できる内容の選定が難しく、参加体験型より、授業形式(講義型)になる。平和学習集会は開催時期の見直し、テーマ設定の工夫、1学期末からの事前指導の導入などが必要。</p> <p>全定合同の職員研修は「ガイジ」発言をとりあげ、LDやADHDという言葉がマイナスの意味で用いられる実態について教職員の意識統一を図る問題提起の機会とした。生徒の学習環境の整備を図る共通理解の機会とした。</p> <p>生徒の意識付けが難しく、時間確保(設定)が困難な現状がある。人権教育推進委員会で作成数を絞り、全職員の投票で選定する流れは確立できた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・もっと直接的にテーマを扱い、「いかに生徒に人権問題を身近なこと・自分のこととして考えさせるか」の事例を検討し、彼らが関心を持つ話題として提供する必要がある。生徒一人一人が考える場を設定することが大切である。 ・各クラス担任からの情報収集・連携を平素から密にする必要がある。 ・「ガイジ」や、蔑称語発言の指導事例、インターネット等の流行語の情報提供を行う必要がある。 ・募集の時期、募集に際した作品の作成時間の確保などで、国語科との連携や担任の負担軽減に向けた改善が必要。
	3 教職員研修に努め、すべての分掌で「人権に配慮した」取り組みをすすめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・県教育委員会等の関係機関と連携しながら、本校の課題解決に適した研修や実践を推進していく。 ・本校の生徒および教職員に関係の深い人権問題の解決について、資料の作成・配布など適切な支援を行う。 	3 3			<p>(社)県人教の意義が全ての教職員に十分に理解されにくく、100%の入会が困難。特別支援教育の推進で、現状では取り組みが困難な面がある。</p> <p>HR活動に使用可能な資料の十分な整備が進まない。生徒に対する啓発活動が十分とは言えない。生徒や教職員の現状・動向を把握し、必要な項目だけでも提示できる工夫が必要だが、人権問題の分野が非常に幅広く、項目を特定するのが難しい。</p>	<p>会員募集の際に管理職からも強く広報して頂きたい。支援を必要とする生徒の情報について、中学校との連携体制作りが必要。</p> <p>新聞や情報誌における「人権問題」に関する記事などを収集する必要がある。インターネットで様々な広報資料を整備・公開する必要がある。</p>

評価項目	目標	具体的方策	自己評価	外部評価	評価	成果と課題	改善策
研究・研修	2 生徒の実態に即した学習指導体制の確立をはかり、わかる授業をめざす。	・教科科学科単位で、教科教材の研究をすすめる。 ・シラバスの取り扱いと評価規準に沿った評価の実践	2	3	3	・シラバスや評価基準を通して、自分の教科研究は進んだが、相互観察等による授業研究はまだ不十分である。	・相互授業研究期間を広げ授業研究が行われやすい体制作りを進める。 ・研究委員等の設立。
	1 3 給食指導をとおして基本的な生活習慣の確立をはかる。	・給食指導を通じて、挨拶やマナーの向上をはかる。	3			・生徒のマナーは給食室の中では十分であるが、日常の学校生活ではまだ不十分である。保健と特活指導の協力体制を年間計画として作成する予定であったが、今年は単独の取組みで終わった。 ・還流報告すべき対象の特定が出来ずに終わった。	・給食室でのマナーが校内生活でも生かせるよう保健、特活の連携を深める。 ・研修の内容を年度当初に十分検討、精選して計画化する。
	3 服務規律を始め、各種研修の機会を増やす。	・年間計画に出張の還流研修を加え、研修回数を増やす。	2				

家庭・地域社会との連携	1 4 家庭・職場・地域社会との連携を密にし、相互の信頼関係を基に家庭・地域全体で生徒を支援する。	・家庭訪問、職場訪問を行い、相互の立場を理解し、信頼関係を築く。	4	4	4	・家庭、職場への訪問は予定通り行われ、生徒を中心とした相互の立場理解が出来た。	・目標は十分達成されたが、次年度も引き続き同様の取組みをする。家庭、職場の声を職員に報告する場を設ける。
		・定時制振興会会員の拡大をはかり、情報交換を密にし、地域社会へ連携の協力を求める。				・今年度、新たに振興会会員として2団体の加入をいただき、更に次年度拡大の予定。次年度さらに拡大の予定で、理解協力を得ている。	・芳河原台の振興会員さんを通して地域社会との連携も図る。
		・定時制関連情報誌を家庭・職場・近隣住民に配布する。				・今年度、広報紙「定時制ニュース」を創刊し、紙面の改善を進めながら第8号まで発行した。紙面の充実と共に配布部数を増やし、第6号以降は全生徒（家庭）に配布するとともに、教育振興会加入の全企業（職場）への送付および近隣自治会への配布を果たした。その点では、概ね目標は達成できたと言える。 ・課題としては、 ①（現在生徒の持ち帰りに頼っている）家庭への配布については、何らかの工夫と対策が必要である。 ②個人情報や肖像権の保護についての対応や共通理解が十分ではない。 ③広報が学校からの一方的な情報提供（一方通行）に終始した。 ④情報紙の質は中心となる編集者の力量に負うところも大きく、マイナス面ともなるその偏りをどう解決していくかは、案外難しい問題にもなって来る。などが挙げられる。	・課題①については、郵送する案も検討したい。 ・課題②については、個人情報や肖像権の保護に関する学校側の方針を保護者に知らせるとともに理解を求めることが必要であり、具体的な文書を準備中である。 ・課題③については、学校内に適切な編集会議を設置し、編集方針を定めるとともに紙面の工夫改善を図る必要がある。 ・課題④については、当面様子を見ながら必要な対策があれば考えていく他ないようである。